

市の介護保険の現状について



さとう よしふみ 議員
佐藤 好文

Q 介護保険の利用負担は1割が原則であったが、一定所得以上の世帯は2割から3割負担になってきています。今後、国が検討している介護保険制度の改定が進めば、介護対象者を要介護3以上の重度者に限定する。そして利用料は1割から2割に引き上げる方向です。そこで、まず介護施設の運営は何力所に対応しているのか。入所者の介護サービスの現状はどうなっているのか。

A 特別養護老人ホーム5施設、介護老人保健施設3施設、介護医療院1施設の9施設があり、社会福祉法人または医療法人が運営しています。特別養護老人ホームは、現在、満床で待機者は200数名ですが、年々減少していて、運営は順調と考えます。

Q 在宅訪問介護の利用者の推移は。

A 延べ人数は、令和3年度6630人、令和4年度6993人で、年々増加しています。

Q 利用料の2割負担の対象者の割合は。

A 介護保険サービス2割負担の割合は、令和5年10月末で約2.4%です。

Q 介護保険料の今後の改定は。介護保険料は増額されるのか。

A 介護保険料は、介護サービスの見込みなどを推計した介護保険事業計画の見直しに合わせて3年ごとに改定しています。令和6年度は改定の年となっており、現在の介護保険料基準額は月額5500円、年額66000円ですが、令和6年度から3年間は、保険料の上昇を抑制するために介護給付費準備基金を取り崩して充当することで、現在と同額に据え置きたいと考えています。

Q 市の主要道路の要望内容と改修、整備の現状は

A 市道その他道路の整備、改修を求める要望は、どの位あるのか。

A 市が管理する道路や河川などの改修や整備などの地区要望は、継続要望を含めて例年1000件程度です。

Q 要望件数の中で工事が完了できない場合はどうするのか。

A 実施できなかった要望は、次年度に持ち越しとなり、新規要望と合わせた中で優先度を考慮し実施しています。

Q 市道認定以外のその他道路、地区の道路整備では、地区の皆さんが参加しているが、高齢化で大変になりつつある。市で管理できるよう検討できないか。

A 市道は、市で維持管理していますが、その他の生活道路は、道路の利用状況に応じ管理をお願いしています。

犬猫の小さな命を守る行政サービスの拡充を



つじ たつひろ 議員
辻 達広

Q 直近3年間の犬猫の不妊・去勢手術への補助金実績および地域猫の実態調査や具体的対策はあるのか。

A 令和2年度は5800頭で290万円、令和3年度は4800頭で240万円、令和4年度は471頭で235万5000円を補助しました。環境安全課への通報内容は、庭や路上でのふん尿被害、臭いや鳴き声の苦情がほとんどです。限られた地域で飼い主のいない猫への苦情は増加傾向にあり、少しずつ地域課題になりつつあると認識しています。

Q 野良猫や地域猫への対策として鹿嶋市のノラ猫病院や公益財団法人どうぶつ基金などがあるが、その評価は。また、それぞれのシステムを利用できないか。

A 市は動物病院を評価する立場ではありませんが、飼い主のいない猫の避妊・去勢手術に関する相談を受けたときは、一つの対応策として必要に応じ情報提供します。
意見 限られた予算の中で、少しでも多くの

犬猫の小さな命を守るために、使える制度・システムを積極的に導入していただきたい。

楽器ふるさと納税の早期導入を

Q 市内の小中学校における備品楽器の状況が悪く、個人持ちの楽器で演奏している状況だと思われるが実態は。

A 楽器を使用する部活動がある学校は、小学校2校、中学校5校です。うち個人所有の楽器を使用する児童生徒の割合は12.9%です。

Q 不足している楽器について、閉校した学校の楽器や他の小中学校の使用していない楽器を貸し借りできないか。

A 使用していない楽器がある学校は11校で、トランペット、トロンボーンなどがあります。活動している学校は約40本を他の学校から借り、必要に応じ有効活用しています。

Q 三重県いなべ市から始まった楽器ふるさと納税を、どのように評価しているか。また、本市でも活用できないか。

A 使用しない楽器を不足している学校で活用することは、大変すばらしい取り組みです。寄附側にもメリットがあり、寄附の活性化にも配慮して画期的であり、より詳しく制度理解に努めます。

意見 学校の楽器が使えないという状況は、経済的な理由から個人で楽器を用意できない児童生徒の、音楽への道を閉ざすことになりかねません。使える楽器を有効に活用するために、楽器ふるさと納税制度は導入すべきと考えます。

